

進捗状況報告

2016.3.17 事務局 河中

関係各位にホームページ開発の進捗状況を報告します
このページはパソコンの word で作成し、pdf 形式で出力してサーバに up しています。
下記 1 の方針に沿う情報・ドキュメントを募集しています。

1 方針

- ① 錦帯橋文化紹介。徴古館にこだわらず全国の美術館も調査
- ② 河床下の 3 層の石畳や橋脚の石垣は創建時のままと主張する
- ③ 錦帯橋の story。
- ④ 錦帯橋周辺で非日常的な文化・魅力を発掘。

2 進捗率 約 35%

既存 HP の乗り換え：90%

新 HP の Frame : 90%

データ収集 : 50% (傍証)

論旨の整理 : 10% (具体的に訴えること、証拠など)

3 最近実行した事

- ① 岩国図書館の本を scan。(作業中)
1953年 永田 新之允著述(元、岩国町町長) 錦帯橋史 約700ページ
錦帯橋創建時、穴太衆から石積を習得した湯浅家古文書が収録されていました。
- ② 昭和26年再建工事中の写真(約1000枚) 岩国徴古館保管 (済み)
昭和25年流失前と再建後の橋脚石垣の写真があった。
- ③ のら犬の会：入手した一部を UP
- ④ 称光寺調査：図書は殆ど仏教関係であった。阿弥陀経を借りた。歴史書なし。
- ⑤ 徴古館松岡さんと打ち合わせ

4 課題

- ① 徴古館で、錦帯橋関係の浮世絵・掛け軸等を調査
- ② 過去の講演会資料・錦帯橋関連図書の収集
- ③ 河床の3層の石畳の図面を入手。。。 (無いかも?)
- ④ 市内の写真館・写真家集団「野良犬の会」の写真を掲載する

5 story 案

ミシュラン・コット氏： 仏国、nantes 大学教授、イコムス評議委員が紹介したスペインのビスカヤ橋が参考になる。

→ 関が原の戦の後、1/4に減封、かつ97%の山林、3%の平野の周防の地に移封になり、激流の流れる扇状地に武家屋敷を造らざるを得ない状況になった。川は洪水時に約10m水位が上がり、殆どのものを流す。平地がすくないため武家屋敷を埋め立てた干潟に配置し、洪水でも流されない堤防・橋が必要になった。

川幅200m、川に柱を立てない構造の橋を必死で考えた結果が、アーチ型架橋である。同時期、黒部峡谷で前田藩が愛本橋を建てたが、他の藩は、平地の広さや、川幅、洪水時の勢いなどで岩国藩ほど厳しい環境には無かった。



錦帯橋が出来た経緯（松岡さん）

- i 関が原で移封(13万石→3万石)
- ii 周防の周りを福島正則、藤堂高虎、黒田長正、加藤清正など東軍の猛将に囲まれた
- iii 東の守りを固めるため、小瀬川、錦川に囲まれた横山に城を配置した
- iv 錦川の下流は広大な干潟が広がっており、干拓・堤防で土地を整備
- v 吉川広家は、徳川といえども家康から3代続けば無能になると考えたが家光が聡明と分かって広正に家督を譲り通津村に隠居した。
以降、**時機到来まで待つ**、内政に力を入れた。
- vi 大部分の家臣は横山対岸の錦見町、鍛冶屋町、鉄砲町、室の木、門前などに住んで川の往来は渡し船である。
- vii 岩国移封35年後、広正は渡し船では不便なため従来工法の木橋を作った。しかし、川に柱を立てるため洪水で悉く流された。
- viii 3代の吉川広嘉は長く悩んだ末、妙案を思いついた。
木製のアーチ橋の錦帯橋である。276年間流失しなかった。
猛将の福島正則は大竹市小方に亀井城を築城し、かつ大阪の陣では一族が豊臣秀頼に加勢する等不穏な動きが目立ち改易されたが、
吉川家は岩国城を破棄し、巨大な堀というべき錦川に橋を架けるなど
時節到来まで隠忍自重して民生を重んじた。
- ix 江戸時代末期、第二次長州征伐で大竹に幕府軍5万人が攻め込んだ時、
迎え撃つ長州藩は、岩国兵が主力となり、小瀬川口の総督は、岩国領主
(藩主)の吉川経幹(監物)があたった。その後、**薩長で徳川幕府を
倒し明治政府を樹立した**

「戦国武将の生き残り策」「平和を創った戦国武将」「能ある大名は爪を隠す」

6 備考

- (1) ブラタモリ申し込みは徴古館の松岡さんに依頼しました。
- (2) 城山周辺に当時の石垣や防塁が残っており未開発の観光資源です(松岡さん談)